

madame

FIGARO

フィガロジャポン

2020
30
ANNIVERSARY

Japon

août 2019
N° 518

特別定価 750yen

8

妻夫木 聡

東京パリジェンヌ。

新しい魅力発見

まだ見ぬ台湾。

新しきみ付録

台北でしたい
12のこと。

新作プレフォール、
タイムレスな服たち。

ルイ・ヴィトン/ポッテガ・ヴェネタ
セシリエ・バンセンが見たニッポン。

香りと私の新しい関係。



フレグランスキャンドルと、ミツバチの関係とは？

パリジェンヌのアパルトマンを訪ねると、必ず目に入るのは、ガラスや陶器に入ったフレグランスキャンドル。18世紀の昔から、フランス人は蚊や臭い対策に、レモンガスやラベンダーの香りをつけたろうそくを使用してきたのだそう。いまや香水メゾン以外にも、ファッションやインテリアのメゾンがそれぞれのイメージを表現したキャンドルが花盛り。ホテルの部屋で愛用のキャンドルを灯して、旅先でも我が家気分を演出という人もいて、選ぶ側にとっても、自分を表現するアイテムのひとつになっている。

さまざまな新作が登場する中、パリを代表する老舗シール トウルドンが発表し

た「CIRE」には、ひと味違う物語がある。もともと、西洋ろうソクの原料は、ミツバチの巣箱から採取するミツロウ。1643年創業のシール トウルドンは、古くから宮廷や教会にろうソクを納めてきたメーカーだけに、「ミツバチは王と神のために働く」という社訓を掲げている。ろうソクの原料がパワフィンに取って代わられたいまも、同社では、成分を安定させてくれるミツロウを2%ほど使用している。故に、創業以来の相棒であるミツバチの保護活動に支援を始めたというわけだ。

花の受粉に不可欠なミツバチは、バイオダイバーシティのシンボリック存在だが、世界中でその減少が危惧されている。古

来、西欧にハチミツをもたらしてきた黒ミツバチも、農薬だけでなく、生産性向上のために輸入された外来種の影響で数が激減。シール トウルドンの工場があるノルマンディーのベルシュにはオルヌ県黒ミツバチ保護センターがあり、この黒ミツバチを守り、増やして各地に広める活動を行っている。「CIRE」の売り上げの4%は、この保護センターに寄付されるというわけ。ミツロウのアブソリュートをミドルノートにした「CIRE」は、溜められたろうと香料が融け合うトルドンの工房がイメージソース。人とミツバチの共存の歴史に思いを寄せ、その歴史が続くことを願って、火を灯したい。

1. オルヌ県黒ミツバチ保護センターは、2016年にベルシュ地方自然公園の一角に誕生。ハチを増やし、各地に新しいコロニーを築いている。
2. 昨年からはシール トウルドンが養蜂を開始。新しい巣箱が並ぶ。
3. 西ヨーロッパで古くからハチミツとミツロウをもたらしてきた黒ミツバチ。
4. 売り上げの4%が寄付されるCIRE 270g 85ユーロ。焼成時間は55～60時間。
5. シール トウルドンの工房。ろうと香料の配合からキャンドルの充填、芯の調整、ペイント、包装まで、たくさんの工程が手仕事で行われている。
6. 3回に分けてろうを充填し、その高さ、中央の芯を手作業でまっすぐに立て直す。
7. シェルジュと呼ばれる、もともと教会用だったろうソク。背後のカメオをゴールドにペイント。 <https://trudon.com>